

## 審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1286 号	氏名	河上 淳一
審査担当者	主査	山本 宏一	(印)
	副主査	平木 照之	(印)
	副主査	佐藤 公昭	(印)
主論文題目 : Usefulness of Shoulder36 in rotator cuff tears: Comparison with Simple Shoulder Test. (腱板断裂患者における Shoulder36 の有用性 : Simple Shoulder Test との比較)			

### 審査結果の要旨 (意見)

患者立型評価として本邦ではShoulder36 (Sh36)が提唱され、国際的にはSimple Shoulder Test (SST)が頻用されている。本研究では、Sh36の有用性を証明するために国際的な患者立脚評価と検者立脚評価 (ConstantスコアとJOAスコア) との関係を検討した。統計はSh36の各ドメインに対し、SSTとConstantとJOAをPearsonの積率相関係数にて検討した。Sh36とSSTの各ドメインに対する相関係数は、疼痛( $r=0.73$ )、可動域( $r=0.70$ )、筋力( $r=0.75$ )、健康感( $r=0.67$ )、日常生活活動( $r=0.69$ )、スポーツ( $r=0.64$ )であり、ConstantとJOAも強い正の相関が認められた。

本研究は臨床的に意義の高い患者立脚評価を証明した有益な研究である。本研究にて国際的評価と比べても Sh36 の有用性が証明されたことから、Sh36 を使用した更なる臨床応用や研究が期待される。今後の展望としては、初診データのみならず時系列データにて、有用性だけでなく治療反応性も検討していく必要がある。

### 論文要旨

患者立脚型評価として日本ではShoulder36 (Sh36)が提唱され、海外ではSimple Shoulder Test (SST)が頻用されている。本研究ではSSTとSh36の関連性を検討した。

腱板断裂患者230例を対象にSh36とSSTを初診時に評価し、併せて検者立脚評価のConstantスコアと日本整形外科学会肩関節疾患治療成績判定基準(JOA スコア)も評価した。統計はSh36の各ドメインに対しSSTとConstantスコアとJOAスコアをPearsonの積率相関係数にて検討した。

SSTとSh36の各ドメインに対する相関係数は、疼痛( $r=0.73$ )、可動域( $r=0.70$ )、筋力( $r=0.75$ )、健康感( $r=0.67$ )、日常生活活動( $r=0.69$ )、スポーツ( $r=0.64$ )とすべての項目で有意な相関関係が認められた。また検者立脚評価も強い正の相関を認められた。

結果より、Sh36はSST同様に腱板断裂症例における患者立脚型評価としての有用性が示唆された。